左から小池さん、矢野さん

（3ページから続く）

販売は、これからとても大切になると感じています。

そうですね。忘れてはならないのはＯＴＣを販売する時も、薬剤師が薬を渡した後を見なくてはならないということです。

胃薬を求めてきた人の中には胃がんの患者さんもいるかもしれない。薬を出した後も何度も胃薬を買いに来るようなら、「一回検査してみましょう」と受診を勧奨すべきです。もしこれでがんが見つかったら、その患者さんは薬剤師を信頼してくれます。これこそかかりつけ薬剤師ですよね。単にＯＴＣを売るだけの仕事で終わっていたら、そもそも誰に胃薬を販売したのかも覚えていないわけですよ。対物業務から対人業務へシフトすることで救える命があるんですよね。

――薬学部は卒業研究が必須ですが、今後対人業務が主体になる中で、基礎研究は将来にどう生きてくるのでしょうか。

基礎研究は極めて重要だと思いますよ。研究とは、分かっていないことに対して仮説を立てるわけですよね。それに対してあらゆる手法を用いて証明するのが研究です。サイエンティフィックな考え方を学ぶと言う点で、卒業研究は非常に大切です。これは対人業務にも生きてきます。

また、スティーブ・ジョブズが「Connect the dots」と言っています。一見関係ないことに思えても、将来どこかで生きてくる。薬学部は過渡期ですから、より多くの経験をしておくことが将来のためになると思いますね。

僕はよく、薬学生に言うんですよ。2025年の時に君たち何歳かと。まだ若いわけですよね。2035年でやっと僕と同じ年くらい。これから薬剤師は猛烈に変わっていくでしょう。そんな時に現場でバリバリに働いているのはほかでもない君たちです。とても面白い時代だと思いますね。

何がしたくて薬剤師になるのか

――どの点がつながるかは、後からでしか分かりませんしね。

就職先の選択にしても、薬学生から「あそこの薬局はこうらしい」「あの企業はブラックらしい」という言葉をよく聞きます。全部伝聞形ですよね。今は情報過多の時代ですから、自分でちゃんと調べて、目で見て、自分の信じたところに就職するべきだと思います。そして就職後はそこにどっぷり浸かってみることです。何かを変えようと思ったら、まずは自分がそこにあえて突っ込んで、その問題点を自分自身が痛感しないといけません。

サイモン・シネックが「Ｗｈｙから始めよ」と言っています。大学の勉強にしても、なぜそれをやるのかを意識してほしいと思います。「何がしたくて薬剤師になったのか」と私はよく薬剤師に問います。細部の違いはともかく、基本的には患者さんのためですよね。それを見つめ直せた薬剤師は、また他の薬剤師に根源的な思いを問い直させることになるでしょう。

――そうなってくれば、薬剤師のドラマもできてくるかもしれませんね。

何度も言いますが、とてもシンプルな話です。薬を出した後を見る。これに尽きます。そうすれば「処方はもっとこうした方がいいんじゃないの」というアイデアが浮かぶ。それを医師に言うかどうか、決断が生じます。決断が採用された瞬間から責任が生じます。この決断と責任があるところに足を踏み込むと、人生は極めてドラマチックになります。薬剤師のドラマもきっとできるでしょう。

森田療法で自信を持とう！

国試予備校の現場から

メディセレＣＥＯ
児島 惠美子

先日、ある高校の校長先生に「とびっきり頭の良い子には医学部を、コミュニケーション能力の高い子には看護学部を、ある程度頭はいいが、コミュニケーション能力があまり高くない子に薬学部を薦めている」と言われ、「薬剤師もコミュニケーション能力はいるのですがぁ！」とショックを受けた、メディセレのしゃっちょう（実は先日、ＣＥＯになっちゃった）児島惠美子です。

日本医療政策機構の調査で、医療関係者への信頼度は薬剤師がトップであるという嬉しい結果の一方、冒頭の校長先生の話のように「薬剤師にはコミュニケーション能力がなくてもよいのでは？」という社会の誤解と、チーム医療とかかりつけ薬剤師になるためにさらにコミュニケーション能力が必要とされる現場との乖離に、薬学生の皆さんは悩む日が来るかもしれません。

さて、日本青少年研究所調査が高校生に実施したアンケートで「自分は努力すれば大抵のことができる」と思った割合は、日本44.4％、韓国83.7％、中国88.8％、米国89.2％でした。日本人は奥ゆかしい性格ですが、中国の半分って……。もう少し自信を持ってもよいのでは？日本人は国際的に見て優秀な民族ですよ！

表題の「森田療法」は、日本人の精神医学者・森田正馬先生が考案した心理療法です。ざっくりいうと「細かいことを気にするタイプの人に『気にするな！』と言っても無理なので、気にしていることを認め、それでも日常生活でやるべきことをやろう」という療法です。まさに、日本人が考案した日本人のための心理療法です。

もし、あなたに自信がないのなら、まずはそれを認めましょう。でも、自信がないためにやるべきことができなくなる方がよくないので「失敗しても大丈夫！」と50回唱えましょう。そしてやっている行動を誰も褒めてくれなかったら、自分で褒めてあげてください。自分で自分を洗脳することが大事です。

コミュニケーション能力を上げるにはまずあいさつから。あいさつした自分を褒めましょう。あいさつに気付いてもらえなくても、大丈夫！あなたの良さは私が気付いてあげますから。